



カラービット®が大分大学附属病院 医薬品管理システムで採用されました

調剤機器大手の株式会社トーショー（東京都大田区）とビーコア株式会社が共同で開発を進めてきました、「カラービット®を利用した医薬品管理システム」が今春より大分大学附属病院に導入されています。2010年11月13・14日に幕張メッセにおいて開催されました日本医療薬学会第20年会において、大分大学医学部と株式会社トーショーにより「手術薬品管理システムの開発」という演題で導入の成果発表がされました。

手術室で使用した医薬品の管理を自動化することは今まで困難とされ、手作業で行われてきました。本システムの導入により、手術室で使用した使用薬剤を自動カウントできるようになり、業務の大幅な効率化を図ることができるようになりました。また、患者個人ごとのデータを蓄積することにより、症例別薬剤使用量統計も可能となり、セット薬剤内容の適正化が常に図れるようになります。今後は電子カルテならびに医事システムと連動

し、医薬品の適正管理を可能とするシステムへの発展が期待されます。

